

中学校区におけるめざす子ども像 自らを律し、自ら学び続ける子										堺市立深井西小学校 校長 西井 義男	
令和6年度 重点目標 めざす児童像「輝く子」 ○人を思いやる子 ○協力する子 ○ルールを守る子 1 毎日楽しく通学し、学ぶことができる学校づくりのため、チーム力を生かした職員間の共通理解・意思統一・情報の共有化・対応の統一を実現する。地域や家庭、関係諸機関とともに連携しながら課題解決・健全育成を進める。 2 児童の豊かな心と健やかな体を育成するために、計画的・継続的な取組を推進する。 3 児童の総合的な学力向上のため、主体的・対話的で深い学びの具体化をめざす。職員はそのための指導力を向上させ「誰もが安心して楽しく学びあえる」授業・学級の実現 を図る。(基礎・基本の定着を確実に行之い、特に学力低位層へ継続的な指導を行う)											
確かな学びの現状 国語科において、「読むこと」の領域では筆者の主張や事例などを適切に読み取り処理する能力において、特に課題がみられる。「書くこと」については、体験したことは書くことができ、自分の考えを書くことに課題がみられる。また、「聞く力」に課題があり、意図をとらえて話を聞くことが難しい。聞く必要性を感じさせ、児童の興味・関心をひきつける学習課題の設定等の工夫を重ね、まずは学びに向かわせていく必要がある。児童が主体的に交流しながら、学習する姿勢を育みたい。 今年度は研修テーマを『「伝え合う力の育成」～主体的・対話的な学びの実現に向けて～』と設定し、国語科の授業実践に取り組んでいく。授業改善に取り組むことで、児童が課題をつかみ、単元を通して主体性をもって、他者と関わりながら、課題を解決しようと取り組む姿を育んでいきたい。 そのために、各教員が児童に実態から学びが主体的・対話的になれる手立てを探って、実践に取り組んでいく。例えば、単元を貫く言語活動の設定や学びが深まる発問の精査、自己の学びが評価できるルーブリックの作成などである。						豊かな心・健やかな体の現状 ・児童数に対して比較的広い運動場が本校にはある。休憩時間に運動場へ出て遊んだり運動したりする児童も増加傾向にある。そこで元気づけ遊ぶ運動する児童を更に増やすために、各クラスに配給するボールの数や運動用具を増やしたり、運動場にミニバスケットボール用のコートを整備したりするなど、運動場の環境をよりよくすることで少しずつ効果として現れてきている。 ・コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策もあり、給食の減らしやおかわりに制約があった分「残食」がやや多かったので、食育担当者による「給食と栄養の関係」の講話や、給食場での「残量」を計測し児童に啓発するなど、本校独自の取り組みを積極的に行っている。 ・今年度の児童アンケートによると、21時までには寝ていると回答した児童(2・3年生)は82%だが、高学年については22時までには寝ていると回答した割合は66%である。「毎日、朝ご飯を食べている」と回答した児童は、全学年で80%を超えている。しかし、遅刻する児童が多く、規則正しい生活リズムの確立が望ましい。「早寝・早起き・朝ごはん」「家での7つのやくそく」などの資料や朝会などで指導し啓発している。					
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学力の向上	総合的な学力の向上	「伝え合う力」の育成 ～主体的・対話的な学びの実現に向けて～	★国語科を中心として「言語力(書くこと・読むこと・話す聞くこと)」を育成する。 ・つきたい力を明確にした授業改善 ・朝の学習(水・金曜日)・・・読解ワークの実施 ・研究授業・公開授業・グループ研修	「となりの席の人やクラスで話し合いながら楽しく学習した。」で肯定評価80%	学校教育アンケート 研究授業 公開授業	1月末 6月・10月・11月	A CBT調査の質問紙を基に捉えると、「先生の話や友達との発表をしっかり聞き、自分の考えを伝えることができていますか」に対して、約68%の児童が肯定的であった。「グループやペアで話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題解決をした」に対しては、約70%の児童が肯定的であった。言語活動(話す・聞く・書く・読む)を中心に研究授業の討議会をおこなってきている。 学年に応じてUDカードを板書で活用すること を推奨しており、児童が授業の流れを理解して学習に取り組んでいる。	A ・各学年ごと年間1回の研究授業、全教諭による公開授業を行い、授業力の向上を図った。 ・学校教育アンケート(児童)の「となりの席の人やクラスで話し合いながら楽しく学習した。」の項目に肯定的な回答が89.3%。 「授業の内容は、よく分かる。」の項目に肯定的な回答が90.7%だった。	A ・意見交流を楽しみ、学習に取り組む子どもの姿が見られるのが良い。自分の考えを言える場が設定され、自分の意見を言える子どもの姿がすごい。一人ひとりの意見を交流することで新しい発見が生まれる。それが大事だと思う。		
		「堺版授業スタンダード」「ユニバーサルデザインチェックシート」を活用した適切な授業の実施	●UDの知見を活かし、安心して学べる教室環境を整え、全員が楽しく「わかる」「できる」授業をめざした実践を行い、学びに向かう力を育成する。 「学習規律(10か条)」の徹底により、学ぶ姿勢の確立をめざす。	「授業の内容は、よく分かる。」で肯定評価80%	学校教育アンケート 「学習規律(10か条)」ふりかえりユニバーサルデザインチェックシート	1月末 毎学期 毎学期	A 個別最適な学びの充実に向けた実践に伴って、ICT活用の授業がより一層進んでいる。タブレットを活用した授業の頻度は、1～3年生は1日1回程度、4年生以上では1日1回以上使用している。	A ・学校教育アンケート(児童)の「タブレットや大型テレビ(デジタル教科書)などを使って学習するとわかりやすい。」の項目に肯定的な回答が88.5%だった。 ・読書キングの掲示を10冊でシールをはる形に変え、参加児童は増えた。100冊達成者(累計)は、昨年度の2倍をこえた。 ・学校教育アンケート(児童)「読書キング」(読書手帳・読書ノートもふくむ)に取り組んだ。」の肯定的回答は、42.6%だった。さらに参加率を高められるよう啓発を進めたい。 ・自主学コンテストを毎学期、実施できた。 ・学校教育アンケート(児童)で「週1回は、自主学習ノートに取り組んだ。」で肯定な回答は77.1%だった。意欲の向上や多様な自主学習の推進のために、努力型研究型など、様々な自主学習の形を評価し、児童らに周知していく。	A ・取組に学年・学級の差があることが課題として残っている。 ・読書した足跡を残すことはとても大事なことだと思う。記録する内容や方法を検討することも必要である。		
		教育ICTを有効に活用した指導法の工夫・改善	ICT機器(電子黒板・タブレット・デジタル教科書など)を活用したわかりやすい授業の工夫	「タブレットや大型テレビ(デジタル教科書)などを使って学習するとわかりやすい。」で肯定評価80% 1日に1回程度タブレットを活用した授業を実施	学校教育アンケート 実施報告 実施報告	1月末	A 個別最適な学びの充実に向けた実践に伴って、ICT活用の授業がより一層進んでいる。タブレットを活用した授業の頻度は、1～3年生は1日1回程度、4年生以上では1日1回以上使用している。	A ・学校教育アンケート(児童)の「タブレットや大型テレビ(デジタル教科書)などを使って学習するとわかりやすい。」の項目に肯定的な回答が88.5%だった。 ・読書キングの掲示を10冊でシールをはる形に変え、参加児童は増えた。100冊達成者(累計)は、昨年度の2倍をこえた。 ・学校教育アンケート(児童)「読書キング」(読書手帳・読書ノートもふくむ)に取り組んだ。」の肯定的回答は、42.6%だった。さらに参加率を高められるよう啓発を進めたい。 ・自主学コンテストを毎学期、実施できた。 ・学校教育アンケート(児童)で「週1回は、自主学習ノートに取り組んだ。」で肯定な回答は77.1%だった。意欲の向上や多様な自主学習の推進のために、努力型研究型など、様々な自主学習の形を評価し、児童らに周知していく。	A ・取組に学年・学級の差があることが課題として残っている。 ・読書した足跡を残すことはとても大事なことだと思う。記録する内容や方法を検討することも必要である。		
		読書指導の充実による「本を読む生活」の実現	朝の読書(火・木)や図書の時間の確保、読書手帳の有効な活用により読書活動を推進する。水・金曜日の始業前に基礎基本についての学習を実施する。 学級文庫を整備する。 読書に対する意欲向上につなげるため「読書キング」達成状況を掲示する。	「読書キング」の表彰の状況 「読書キング」(読書手帳・読書ノートもふくむ)に取り組んだ。」で肯定評価が80%	「読書キング」表彰 学校教育アンケート	毎学期 1月末	B 全学級で「朝の読書」「図書の時間」を確保できている。読書キングの掲示・表彰を継続している。今年度より掲示の参加児童が増えた。感想を書くのに抵抗がある児童も多いのが課題。学級文庫の整備を進めることができてい	B ・自主学コンテストを毎学期、実施できた。 ・学校教育アンケート(児童)で「週1回は、自主学習ノートに取り組んだ。」で肯定な回答は77.1%だった。意欲の向上や多様な自主学習の推進のために、努力型研究型など、様々な自主学習の形を評価し、児童らに周知していく。	B ・自主学習の学習内容に悩んでいる子どもたちも多い。学校での指導がもう少し必要ではないかと思われる。自主学習ノートへの担任の先生のコメントが子どもの励みになっている。		
		自主的な学習習慣の定着(自主学習ノート)	★「家庭学習の手引き」をもとに、家庭と連携しながら、自主的に学習する習慣を定着させる 自主学コンテストを開催し、意欲的に自主学習に取り組めるようにする。	全学年(1年生は後期から)・全学級で全員が自主学習ノートに取り組む。 「週1回は、自主学習ノートに取り組んだ。」で肯定評価が80%	提出率 学校教育アンケート	毎月 1月末	B 全学級で自主学習ノートに取り組む、校内掲示や学級での紹介により、意欲的に取り組む児童が増えている。内容の向上についてさらに啓発が必要。自主学コンテストは、今年度から毎学期1回に増やし、計画的に開催してい	B ・全学級で自主学習ノートに取り組む、校内掲示や学級での紹介により、意欲的に取り組む児童が増えている。内容の向上についてさらに啓発が必要。自主学コンテストは、今年度から毎学期1回に増やし、計画的に開催してい	B ・全学級で自主学習ノートに取り組む、校内掲示や学級での紹介により、意欲的に取り組む児童が増えている。内容の向上についてさらに啓発が必要。自主学コンテストは、今年度から毎学期1回に増やし、計画的に開催してい		
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	生活習慣の定着と、思いやりのある心と態度の育成	●「豊かな心」の育成をすすめる中心的な取組としての「あいさつのできる子ども」の育成 あいさつ運動に取り組む。 ●生活習慣の改善。睡眠時間の確保、朝食を毎日とるように意識づけを行う。	「子どもたちは、すすんであいさつができるように育ってきている。」で肯定評価が80% 生徒指導アンケートの肯定評価80%	学校教育アンケート 学期末の児童アンケート	1月末	A 全校朝礼で校長および生指担当から「あいさつ」について機会あるごとに話をしてい。あいさつ運動も毎学期、期間を決めておこなっている。今年度は1年間のうち、3か月は子どもが校門に立ってあいさつすることになっている。教師側から子どもたちへあいさつすることを意識して取り組んでいる。自分から進んであいさつする児童が増えている。	A ・学校教育アンケート(児童)の「すすんであいさつができた」の肯定的回答が93.1%であった。また、地域の方から「あいさつをしっかりできている。今年度は1年間のうち、3か月は子どもが校門に立ってあいさつすることになっている。教師側から子どもたちへあいさつすることを意識して取り組んでいる。自分から進んであいさつする児童が増えている。」というお声も頂いている。 ・学校教育アンケート(児童)の「社会のきまりやルールを守ることができた」の肯定評価が90.8%。保護者の方は、「学校は社会のきまりやルールを守ることができた」で、74.1%という結果だった。 ・深西タイムは6年生が主体的に計画・実行することができた。「生活アンケート」でも重大ないじめ事項と認められるものが上がることはなかった。 ・学校教育アンケート(保護者)「学校は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。」で肯定的評価60.5%(わからない20.1%) ・学校教育アンケート(児童)「いじめなどダメだと意識して行動した」で92.2%	A ・進んであいさつする子どもたちが増えている。これまであいさつを返してくれなかった子どもの中に返してくれるようになった子どもが増えた。 ・「あいさつ運動」に参加する子どもたちの意欲が感じられて良い。 ・「見守り隊感謝の会」実施後、「いつも守ってくれてありがとうございます」と言ってくれる子どもの姿があった。		
			★学習規律(チャイム着席)、学習習慣、生活習慣等の定着に向けて、すべての根底をなす規範意識を育成する「学校生活のきまり」の徹底	「学校は社会のきまりやルールを守ることがを指導している」の肯定評価が80%	学校教育アンケート	1月末	A 学習規律、学習習慣、生活習慣の定着に向けて、生指担当を中心として取り組んでいる。特に「あいさつ」「ベル着」「掃除」の指導を徹底した。	A ・深西タイムは6年生が主体的に計画・実行することができた。「生活アンケート」でも重大ないじめ事項と認められるものが上がることはなかった。 ・学校教育アンケート(保護者)「学校は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。」で肯定的評価60.5%(わからない20.1%) ・学校教育アンケート(児童)「いじめなどダメだと意識して行動した」で92.2%	A ・保護者にとって学校の取組が見えずらくなりくい。取組について先生方と保護者が共有できればと思う。		
			思いやりの心を持ち、仲間を大切にする子の育成。児童相互が理解を深め、いじめのない学級・学校をつくる縦割り活動の「深西タイム」の実施	生活アンケートでの早期発見・早期解決、各学期に実施、個別な聞き取りを行う・深西タイムに取り組む。 「学校は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。」の肯定評価が80%	実践報告 学校教育アンケート	毎学期 1月末	B 縦割り活動「深西タイム」を4回実施済み。6年生を中心に楽しく活動している様子が見られる。	B ・学校教育アンケート(保護者)「学校は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。」で肯定的評価60.5%(わからない20.1%) ・学校教育アンケート(児童)「いじめなどダメだと意識して行動した」で92.2%	B ・保護者にとって学校の取組が見えずらくなりくい。取組について先生方と保護者が共有できればと思う。		
	体力の向上	様々な体育的行事や取り組みを通して体力向上を図るとともに、食育、保健指導の充実を図り、健康な生活を送れるようにする	全クラスで体育の最初の時間に「深西サーキット」を実施し、基礎体力の向上に向けた取り組みをする。 全学年で「体育検定」実施し、休み時間に外へ出て運動したりする習慣を身に付けさせる。 自分の体のことについて興味・関心を高める。 3年生以上で保健の授業で健康な生活を送るにはどうすればよいかを考える。 食育、栄養指導、保健指導、健康指導の推進	「体育での「深西サーキット」やなわとび、休み時間の外遊びなどいろいろな運動に取り組んだ。」の肯定評価が80% 3～6年生で実施 3年生で実施	授業での振り返りの言語化の確認(体育カード) 実施報告 実施報告	実施後 年度末 年度末	A 体育の最初の時間に全クラスで「深西サーキット」を実施している。学校全体で統一して行うことができていて、児童の意識も上がってきている。今後に向けて、学年の実態に合った種目や回数を考えていく必要がある。 A 栄養教諭と連携した食育指導、養護教諭と連携した保健指導を行い、健康に生活を送るための児童の意識が高まっている。	A ・体力テストの結果より、すべての学年、男女ともに堺市平均を上回る種目が大いに増加した。児童自身の意識の向上、体力アップにつながった成果といえる。 ・学校教育アンケート(児童)の「体育での「深西サーキット」やなわとび、休み時間の外遊びなどいろいろな運動に取り組んだ。」で、肯定的評価が78.2%。 ・保健委員会の児童を中心とした生活調査を行い、基本的な持ち物を児童に意識させることができた。	A ・基礎基本の運動を継続して行うことは良いことだと思う。成果につながっていることが良い。 ・全学年全学級で取り組むことが大事。		
(地域協働)	信頼される学校	地域組織との連携と地域人材・の活用による開かれた学校づくり	見守り隊等の地域組織との連携により、児童の安心安全に向けた体制づくりに取り組む。 地域人材の活用と連携による教育環境の整備をすすめる。	「学校は、見守り隊などの地域組織と連携や、地域行事への参加などを通して、地域に親しみを持つ児童を育てようとしている。」で肯定評価が80% 地域人材の活用と連携状況	学校教育アンケート 活用・連携状況	1月末	A 地域の見守り隊のおかげで、登下校中の事件・事故がおこっていない。 地域人材の活用として、2年生の町探検・3年生の店の仕事でのインタビューや、4年生での地域の防災についての講話で、地域の方々に関わっていただいている。	A ・学校教育アンケート(保護者)の「学校は、見守り隊等の地域の方と連携して、教育環境を整え地域に親しみを持つ児童を育てようとしている」で肯定評価が78.5%。学校教育アンケート(児童)では、「登下校の時、見守り隊の方に、挨拶することができた。」の肯定的評価は、96.9%という結果だった。	A ・4年生の「防災」の学習で地域の方との交流があった。意欲的に学習に取り組む子どもの姿が見られて良かった。今後も取り組みを継続してほしい。		
		積極的な情報発信による、教育活動への理解と協力の獲得	学校通信・学年通信の活用 保護者連絡ツール「teturu」の活用 ホームページの積極的な更新を通じて学校の情報を発信する	「学校では学校通信やHPなどを通して、保護者や地域に対し、情報発信に努めている。」で肯定評価が80%	学校教育アンケート	1月末	A 学校通信・学年通信を活用して情報発信している。また、ホームページも休日以外は毎日更新して情報発信している。アクセス数を増やすための啓発が必要。	A ・学校教育アンケート(保護者)の「学校では学校通信やHPなどを通して、保護者や地域に対し、情報発信に努めている。」で肯定的評価が78.5%となった。	A		
校長より(年度末) ・今年度、「伝え合う力の育成を目的とした研究授業」「公開授業」や「ICT機器の活用」「読書」「自主学習」「体力向上」等に重点をおいて、教育活動をおこなってきた。一定の成果が見られた反面、課題も残った。 ・本校の教育目標にもある「あいさつ」に一年間通してこだわって取り組みを進めてきたことが、子どもたちのあいさつする姿につながっていると感じる。 ・今年度の成果と課題を改めて見つめなおし、目標を新たに学校教育活動を実施していきたいと思う。							学校関係者評価者から(年度末) ・「あいさつ」「体力向上」「ICT機器の活用」「読書」「地域との連携」等、全てにおいて昨年度より一歩進んだと感じる。 ・次年度、さらに学校としてステップアップすることを期待する。				